

教員の定年後生活 (7) ライフコースにみる教師類型—事例調査より
横浜国際福祉専門 ○竹田久美子 お茶女大 袖井孝子 大塚洋子
共立女大 細江容子 群馬大 長津美代子 大修館書店 福島裕子

【目的】教員の職業生活に焦点をあて、特に性別・出身校・職業上の地位に注目しながら教員のライフコースを類型化し、その規定要因を明らかにする。また、各類型ごとに教員の職業生活における喜びや悩み、困難などについて考察する。

【方法】第5報に示した定量的調査の対象者のうち、個人調査への協力に応じるとの回答のあった者から男性33、女性31ケースを抽出し、訪問面接法による聞き取り調査を行った。調査時期は1994年7月～8月。

【結果】①男女別、出身校別に職業上の地位をみると、男性では旧制師範および国公立大学教育学部出身者の管理職率は78.6%であるのに対し、私立大学および短期大学出身者のそれは50.0%と歴然とした差が認められる。女性においては出身校にかかわらず管理職率は低い。②教員のライフコースを職業上の地位に注目して類型化すると、「順調管理職型」・「生涯教諭型」・「ジレンマ型」の3類型に分類される。③男女別に類型をまとめると、男性は「順調管理職型」が最も多く、女性では「生涯教諭型」が最も多い。「ジレンマ型」は男性よりも女性において全体に占める割合が高くなっている。④出身校と性別によって類型をみると、男性においては「順調管理職型」が「旧師範・国公立」出身者に多く、「ジレンマ型」は「私大・短大」出身者に多くなっているのに対し、女性の場合は「ジレンマ型」が「私大・短大」よりむしろ「国公立大」出身者に多くなっている。⑤「ジレンマ型」の教員の多くは、管理職登用のシステムや学閥のあり方、職業生活上の男女差別などについて悩みや不満を表明している。